

私の進路に対する悩み

大阪大学工学部地球総合工学科 3年 田部 伊紗美

私は今、悩んでいます。自分が建築のどの分野に一番関心があるのかがよくわからず、3年次の終わりごろにある研究室配属で計画系に進むか、構造系に進むか、環境系に進むかを決められないからです。

私が建築に関心を持ち始めたのは、高校1年の夏休みでした。親と出かけた美術館で偶然開かれていたウィリアム・メレル・ヴォーリズの特別展を見て、デザインの美しさに魅了されたのです。そのデザインがどのように生み出されたものなのか、どのような構造でその形態が成り立っているのかを知りたいという欲求を持ちました。そして、建築を学びたいと思ったのです。しかしその時、建築は数ある私の関心事の一つでしかありませんでした。

高校生の時に独学で建築について学ぼううちに、建物の省エネルギー化にも関心を持ち、特にヴァナキュラー建築に見られるようなパッシブな手法を有効に活用して省エネルギー化を実現する方法はないのか、ということを考えるようになりました。その時期がちょうど受験する大学と専攻を決めなければならない時期だったので、大学ではその時、自分が一番関心のあることを学ぼうと決めました。

大学は、建築を学び得る大阪大学地球総合工学科に入学しました。2年次に建築工学科目に配属され、建築について本格的に学び始めましたが、私の欲求は満たされませんでした。大学の講義内容はこれから役立つことであり、面白味もありました。しかし、その一方で物足りないと感じている私がいて、もっと建築を知りたい、関わっていきたいという思いがありました。そこで、大学の講義内容を身につけていくことはもちろん、街歩きをしたり、展覧会などを見に行ったりして学校外でも積極的に建築に関わるようにしてきました。

例えば、2年生の夏休みには「建替え・再開発の転換期にある千里ニュータウン ―計画理念の再評価と空間システムの継承に向けて―」という Workshop に参加しました。この Workshop は阪急南千里駅前の建物や駅を中心としたニュータウンの設計意を市民の方に知ってもらい、建物と都市計画に基づいて作られた動線を維持・活用していく重要性を理解していただくことを目的としたものでしたが、私はこの Workshop を通して、阪急南千里駅前の建物や広場等を設計した設計者の意図やまちの考え方を学び、単体としての建築だけでなく、全体としてのまちに対する考えを深めるとともにその重要性に気づかされました。

また、3年の前期にあった『建築設計第三部』という授業の第一課題「建築のコンバージョン：中央郵便局からビジターセンター・美術館へ」というコンバージョンの設計製図課題を通して、既にある建築物を活用して新たな価値を生む方法について考える機会を得ま

した。

現在の私の関心事としては、建物の省エネルギー化、空間の快適性とは何か、リノベーション、構造の自由度とその可能性といったことがあります。このうちのどれか一つに興味・関心を絞るということは、私にとって非常に難しいことです。その一つが今後の研究内容になり、ひいては仕事内容につながるかと思うと、悩みは深まるばかりです。それに、私の欲求はまだ満たされていません。建築について知れば知る程、関心事が広がり、これからの進路を決めるのが難しくなっていくことは私の場合、火を見るよりも明らかなのですが、それでも当初抱いた「建築について知りたい、学びたい」という気持ちが何よりも強いのです。時間を自由に使うことも、やりたいことにどんどん挑戦していくことも、学生の今だからできることだと思います。だから、もう少し、研究室配属を決めなければいけない3年次の終わりごろまでのあともう少しだけ、建築について様々な分野に関心を持って、学んでいきたいと思っています。